



2011 ミニディスクロージャー誌

第104期 営業の中間ご報告  
平成23年4月1日～平成23年9月30日

鹿児島銀行  
KAGOSHIMA BANK

## \* ごあいさつ

平素は格別のお引き立てを賜わり誠にありがたく厚く御礼申し上げます。

わが国の経済は、本年3月の東日本大震災の影響により輸出や生産活動が低下したものの、ここにてサプライチェーン等の立て直しもあり改善の兆しもみえてまいりました。地元経済においては、生産活動や雇用情勢が低調に推移するなど全体としては厳しい状況が続くなか、九州新幹線全線開業効果により観光関連が好調となり、個人消費も持ち直しの動きがみられました。

このような経営環境のなかで、当中間期も本報告書記載のとおり業績をおさめることができました。これもひとえに皆様方のあたたかいご支援の賜物と心から感謝申し上げます。

当期は現在推進しております「第4次経営戦略計画」の仕上げの年であります。銀行をとりまく経営環境は、さらに厳しさを増していくと思われませんが、今後とも皆様方のご期待にお応えできるよう、創意と努力を尽くして業績の向上に努める所存でございます。何とぞ倍旧のご支援とご指導を賜わりますようお願い申し上げます。

平成23年12月



取締役頭取 **上村基宏**

## C O N T E N T S

ごあいさつ	1
企業理念・金融経済環境	2
業績ハイライト	3
健全な銀行として	5
経営計画	7
地域密着型金融の推進について	8
企業活動を通じた“かぎん”のすがた	9
金融円滑化への取組みについて	10
CSR(企業の社会的責任)への取組みについて	12
グループ会社	14
Topics	15
中間連結財務諸表	17
中間財務諸表(単体)	19
当行の概要・役員	21
株式のご案内	22

## \* “地銀らしい地銀”を目指して

### \* 企業理念 \*

#### 健全経営

健全経営を堅持し、信頼される企業となる。

#### 地域貢献

地域とともに歩み、地域社会の発展に貢献する。

#### 顧客志向

お客様のニーズに応え、お客様の満足を高める。

#### 企業活力

自由闊達で創造性に満ちた企業風土を築く。



## \* 金融経済環境 (平成23年4月1日～9月30日)

当上半期のわが国経済は、東日本大震災の影響により輸出や生産活動は低下したものの、期後半はサプライチェーンの立て直しで持ち直しの動きがみられました。この間、雇用・所得環境は回復に向けた動きに足踏みがみられ、厳しい状況が続きました。個人消費は震災後の自粛ムードによる弱い動きから徐々に上向きました。投資面では公共投資は総じて低調な推移が続き、住宅投資は震災の影響を受けたものの、住宅エコポイントなどの経済政策効果が下支えました。このような状況のもと、日経平均株価は9,500円前後で推移した後、対米ドルレートで80円割れが定着した円高や欧州の債務問題、世界景気の先行き懸念などから9月下旬に8,400円を割り込むなど、軟調な推移となりました。また、消費者物価は前年比で下落が続きました。

地元経済におきましては、生産活動が弱含み、雇用情勢も低調に推移するなど、全体として厳しい状況が続いているものの、九州新幹線全線開業効果により観光関連が好調となり、

個人消費も持ち直しの動きがみられました。

生産面では、電子部品関連は懸念された原材料調達が震災前の水準に戻った一方、円高の影響や競争激化で受注の動きは弱く、食料品関連は焼酎の生産・出荷ともに前年割れが続きました。

畜産関連では、肉用牛(和牛)の枝肉相場は低調に推移し、豚肉・ブロイラー・鶏卵相場は底堅く推移しました。建設関連では、新設住宅着工戸数、民間建設工事は一部に改善の動きがみられた一方、公共工事は低調な動きになりました。

個人消費関連では、新車(乗用車・軽自動車)販売は期前半の震災による自動車メーカーの供給不足や昨年のエコカー補助金制度による反動減で前年を下回ったものの、大型小売店(百貨店・スーパー)販売は堅調に推移し、前年を上回りました。

観光関連では、九州新幹線全線開業効果により、主要ホテルの宿泊客数、主要施設の利用・入場者数は好調に推移しました。